

裏散策の物見山



年齢忘れた10人衆

2月も下旬に入り、寒さの心配はさほどないのではと思っていたが、そう旨い具合には行かないのが

この季節。

雲が低く垂れこめ、何の変哲もない物見山、参加者は絶対少ないと踏んで出かけるが、雨を理由に欠席する仲間はいない。今日も絶対楽しい1日になると決めてかかっていたの出席、笑顔の10人。物見山の山頂までは、時間つぶしの泣かずに池回りを選択。

出発すると間もなく霧のような小雨に、傘は皆準備しているがバックパックから取り出す気配は、誰もない。途中用意されたパンフレットを頭に寄せ霧雨をしのぐ。

街の中だったら髪の毛の乱れを気にし、そそくさと傘をさすところかと思うが、今日は山女を決め込みケセラセラ。傍で見たら、年寄りの我慢比べに写ったかと思う。

正法寺の70段を一気に登り鐘楼の下で小休止、ここから知って居る人でないと見落としそうな獣道かと思われる細いコースの林道に入る。濡れ落ち葉や、時々出ている木の根に足を取られないように注意しながらの下りを30分。ここからは市民の森に入り少々の登り、途中清澄のゴルフ場を眼下右見て進む。

程なく見晴らし台へ、ここでは恒例の全員揃っての記念写真、万歳好きの仲間に合わせて万歳三唱を唱える。

頂上からの緩い下りは、大東文化大学の裏側を歩く格好になる。



後姿は40台？若いのにビックリ

今回、お弁当なしの計画になっている。其れにはちょっとした訳がある。
学食の世話になって、学生気分を味わおうと言う若返り作戦だ。
食堂に着いたのが1時5分前、注文時間が1時までと知り慌てる。
学食は年金暮らしには有り難い、安価で盛の良いのが気に入る、一同舌鼓を打つ。



パットしない、ロダンの考える人

食堂を引き上げる頃には小雨も上がり、ここからは一気に下る。
前に行く人の踵を踏み、靴が脱げそうになるとすかさず「靴をぬがしてどうしようっていうの?」「脱がすものが違った?」等の、冗談が飛び交う。
その後、駅近くのファミレスで反省会と3月山行の打ち合わせ、その後は大よその年間計画も決まる。
夏のイベントは2泊3日の磐梯山行きに決定。目の前にエンジンが下げられると馬ではないが俄然元気が湧く。

“今年も盛り沢山の計画で楽しい一年になりそうだ。”

記事 : 浅見

写真 : 我妻